



林に差し込んだ光を受けて神秘的に輝くギンリョウソウ―芦屋市奥池南町

①「ギンリョウソウ(銀竜草)」と名がつけられたのは、なぜですか。

[Empty rounded rectangular box for answer 1]

②ギンリョウソウが、自ら養分をつくれない(「光合成」ができない)のは、なぜですか。何から養分を摂っているのですか。

[Empty rounded rectangular box for answer 2]

④中国では、どのように呼ばれていますか。それは、なぜですか。

[Empty rounded rectangular box for answer 4]

# 淡い白ひっそりと

下向きに咲く花と退化してうろこ状になった葉の様子が、タツノオトシゴに似ていることから名が付いた「ギンリョウソウ(銀竜草)」が芦屋市北部の奥池のほとりですっきり咲いている。

光合成をするのに必要な葉緑素がなく、自ら栄養分をつくれなため、菌類から養分を摂取する腐生植物。湿り気のある薄暗い林を好み、日本各

## 芦屋 ギンリョウソウ咲く

地や中国、朝鮮半島などに分布している。

春に茎を伸ばし、初夏に花を付け始める。根以外は真っ白に見えるが花弁の内部は紺色。茎は日差しを受けると透き通って輝くため、中国では水晶蘭と呼ばれている。

奥池のほとりに群生しており、高さが10センチほどしかないため、気づかず通り過ぎる人も多い。

(等原次郎)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。